

国語科学習指導案

福山市立新涯小学校 横山 弥生

1 日 時 令和5年1月13日（金）第2校時

2 学 年 第2学年4組 男子14名 女子14名 計28名

3 単元名 もっと楽しいおにごっこにしよう 「おにごっこ」
(光村図書 「こくご二下 赤とんぼ」)

4 単元について

(1) 単元観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年告示）国語第1学年及び第2学年の〔思考力、判断力、表現力等〕「C読むこと」（1）ウの指導事項「文章の中の重要な語や文を考えて選び出すこと。」及びオの指導事項「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつこと。」を受けて設定している。

「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」力を育成するためには、文章に書かれている事柄や筆者の考えを理解し、自分の経験と比べながら考えることが必要となる。

本単元で扱う教材文「おにごっこ」は、「はじめ・中・終わり」の構成になっており、「はじめ」には問い、「中」には答えとなる事例、「終わり」には筆者の考えが書かれている尾括型の説明的な文章である。

「はじめ」には、「どのような遊び方があるのか。」「なぜそのような遊び方をするのか。」の二つの問いがあり、問いの答えを探しながら読み進めることで、それぞれの段落に書かれている重要な語や文を読み取ることができると考える。また、児童にとって「終わり」がある説明的な文章は初めてあり、「終わり」が読み手を納得させるために必要な段落であることに気付かせることで、より文章全体の意味理解を深めることができると考える。

教材文の題材であるおにごっこ遊びは、児童にとって身近で、誰もが遊んだことがあるため、自分の体験と結び付けながら読むことに適している教材である。また、おにごっこは、学習過程で実際に試してみることができると、体験と結び付けながら、考えをもつ力を身に付けさせるのに適した単元である。

(2) 児童観

本学級の児童は、「たんぼぼのちえ」や「どうぶつ園のじゅうい」「馬のおもちゃの作り方」などの説明的な文章を扱う単元では、時間的な順序や事柄の順序に気を付けて読む学習を行っている。これらの学習を通して、文章の大まかな内容を理解したり、接続語に着目して段落のつながりを考えたりしながら読むことができるようになってきた。しかし、大まかな文章の内容は理解していても、文章に書かれていることを自分の言葉で置き換えたり、語と語のつながりの意味を理解したりしながら読むことについては課題が残っている。事前に行ったアンケートでは、自分の考えをもつことができると答えた児童が78%、教材文の内容と自分のもっている経験とを結び付けて読んでいると答えた児童が71%であった。肯定的に答えた児童は、理由として、「教材文をきちんと読むとわかるから。」「教材文の内容が身近なことだから、イメージしながら読んでいるから。」と答えている。一方で、否定的に答えた児童は、「考えの理由をどう説明したらよいかわからないから。」「文章の意味がよくわからないから。」といった理由を挙げている。実際に、肯定的に回答した児童は文章の意味理解につまずきの見られない場合が多く、すらすらと明瞭に音読できている。一方で、否定的に回答した児童は文章の意味理解につまずきが見られることが多く、読み間違いや読み飛ばしがあり、明瞭に音読ができていない。文章の内容の正確な理解のために、継続的に繰り返し音読の練習をしたり、文章を読むことが苦手な児童には教科書の文を指等で押さえながら読むように促したり、語のまとまりが分かるように区切りの線をつけたりするなどの支援を行っている。

(3) 指導観

指導に当たっては、文章を読んで感じたことや考えたことを言語化して表現する力をつけるために「自分の考えたことや感じたことを発表しよう。」という学習目標を設定とする。導入では、「おにごっこ」について知っていることや思うことなどを出し合い、教材文の内容への関心を高め、

「おにごっこについて知りたい」「もっと楽しい遊び方を考えたい」と思えるようにする。

文章の意味理解に課題がある児童は、内容を理解しながら読むことができるようになるためにも、繰り返しの音読と明瞭な発音で読むことが必要であると考え。授業の中で繰り返し音読する時間をつくったり、「一斉読み」「追い読み」「一文読み」を取り入れたりし、児童が飽きることなく反復して音読に取り組む工夫をする。

本教材文は、「どんな遊び方があるのか。」「なぜ、そのような遊び方をするのか。」の二つの問いを冒頭部に有している。問いに対しての答えを見つけるだけでなく、走るのが得意な人や苦手な人など、いろいろな人がいても、ルールを工夫するだけでみんなで楽しむことができる、おにごっこの遊び方の可変性によるおもしろさに気付くようにしたい。教材文で紹介されている遊び方が児童にとっては、楽しいとは思えない児童もいるかもしれない。否定的な意見が出た時には、「どうすれば楽しくなるのか。」を考え、「ルールを工夫することでみんなが楽しめる遊びである。」ということにつなげていく。

本単元を通して、児童に「自分の考えをもつ。」「考えを表現する。」という力を身につけ、単元の終末に文章の内容と体験とを結び付けて感想を書くことができるようにしたい。そのため、毎時間の授業で「自分の考え」とその「理由」を書く時間を設定する。「遊び方がいくつあるのか。」「遊び方の相違点はなにか。」など、数や比較、分類など、児童が考えやすく、読み返したくなるような発問を設定していく。また、児童が文章の内容と自分の体験と結び付けて考えるためにも、体育科の授業で教材文に紹介されているおにごっこを実際に行ってみて、教材文に書かれている「遊びの楽しさ」について交流するようになっていく。このように毎時間の授業の中で自分の考えをもったり表現したりすることで、教材文の内容と体験を結び付けて比べながら感想をもつ力を育成することができる。と考える。

5 単元の目標

- 言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付くことができる。
〔知識及び技能〕 (1) ア
- 文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕 C (1) ウ
- 文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。
〔思考力・判断力・表現力等〕 C (1) オ
- 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切に思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

6 単元の評価規準

文章の内容と自分のおにごっこ遊びでの体験とを結び付けてもった感想を文章にまとめることを通した指導 【言語活動例 C (2) イ】		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・言葉には、事物の内容を表す働きや経験したことを伝える働きがあることに気付いている。 (1) ア	・「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を選び出している。 C (1) ウ ・「読むこと」において、文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。 C (1) カ	・進んで、文章の内容と自分の体験を結び付けて考え、学習課題に沿って、感じたことや考えたことをまとめようとしている。

<言語活動の評価の具体及び手立て>

	評価規準【「おおむね満足できる」状況（B）】	「努力を要する」状況（C）と判断した児童への指導の手立て
<p>思考・判断・表現</p>	<p>・教材文「おにごっこ」の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。</p> <p>ワークシート</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>その理由 (体験) これから</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>筆者の考え に対して 思ったこと</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 25%;"> <p>おにごっこ について分 かったこと</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>どうしてかという点、わたしも学級レクリエーションでおにごっこをした時に逃げる場所が広すぎてタツチできなかったけど、逃げる場所を狭くしたらタツチすることができて楽しくなったからです。これからは、みんなが楽しくなるように遊び方をくふうしたいです。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>わたしは、「おにごっこ」は、みんなが楽しむことが出来る遊びであると思いました。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>わたしは、この文しよを讀んで、逃げてはいけなところを決めることで、おにをする人はつかまへやすくなつて、おにごっこが楽しくなることがわかりました。</p> </div> </div>	<p>事前に自分の考えたことを箇条書きで整理させておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者が伝えたいこと ・筆者の考えに対して思ったこと ・その理由（体験）（ワークシート） <p>考えが出ない児童には、実際に学級レク等でおにごっこをしている時の写真を見せて、自分がその時に感じたことや考えたことを想起させる。</p> <p>思ったことや考えたことが言語化できない場合は、これまでのおにごっこ遊びの具体的な場面を想起させながら、文章の内容について引き出す。</p>

7 指導と評価の計画（全9時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法等
一	1	<ul style="list-style-type: none"> 学習計画を立てる。 「おにごっこ」について知っていることや思うことを話し合う。 				
二	2 3	<ul style="list-style-type: none"> 問いをみつける。 問い1に対しての答えを文章から見つけ、文章の大体を捉える。 				
		(体育科) <ul style="list-style-type: none"> 教材文で紹介されているおにごっこを体験する。 				
	4 (本時) 5 6 7	<ul style="list-style-type: none"> 教材文で紹介されている、範囲を決めるおにごっこ条件をつけない場合のおにごっこの遊び方の違いについて比較する。 教材文で紹介されているおにが増える遊び方と手をつないでおいかける遊び方とを比較し、「なぜ、そのような遊び方をするのか。」について考える。 教材文を通して筆者が伝えたいことは何かについて考える。 	○	○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・文章の中の重要な文を考えて選り出している。(C(1)ウ) [知識・技能] <u>ワークシート</u> ・言葉には、事物の内容を働く働きがあることに気付いている。
三	8	<ul style="list-style-type: none"> 教材文に書かれているおにごっこの楽しさや筆者の考えと自分の体験とを結び付けて、思ったことを文章にまとめる。 		○		[思考・判断・表現] <u>ワークシート</u> ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもっている。(C(1)カ) [主体的に学習に取り組む態度] <u>児童の様子, ワークシート</u> ・進んで文章の内容と自分の体験を結び付けて考え、学習課題に沿って、感じたことや考えたことをまとめようとしている。
	9	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読んで感じたことや分かったことを共有する。 				

8 本時の学習

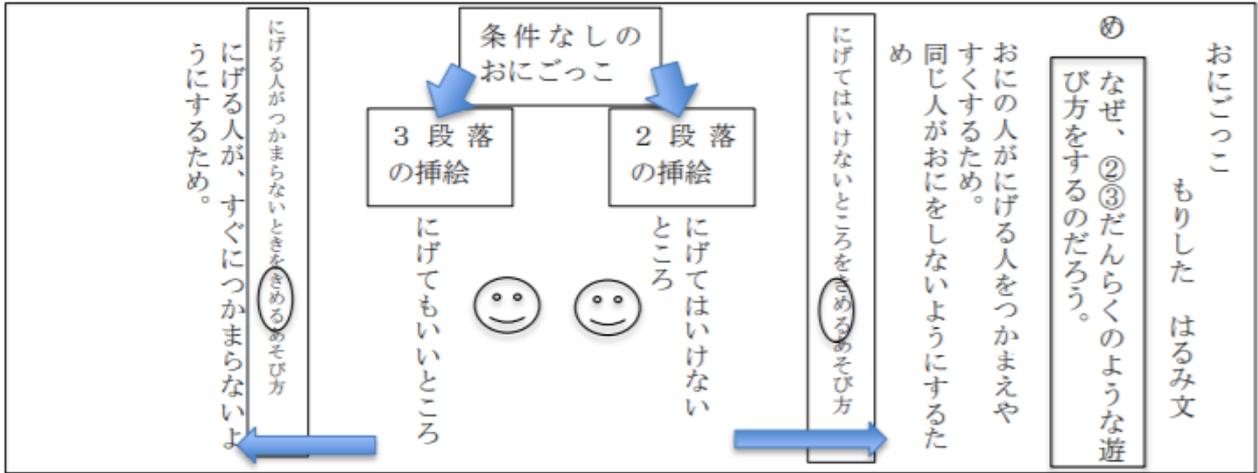
(1) 本時の目標

教材文に書かれている内容を捉え、文章の中の重要な語や文を選び出すことができる。

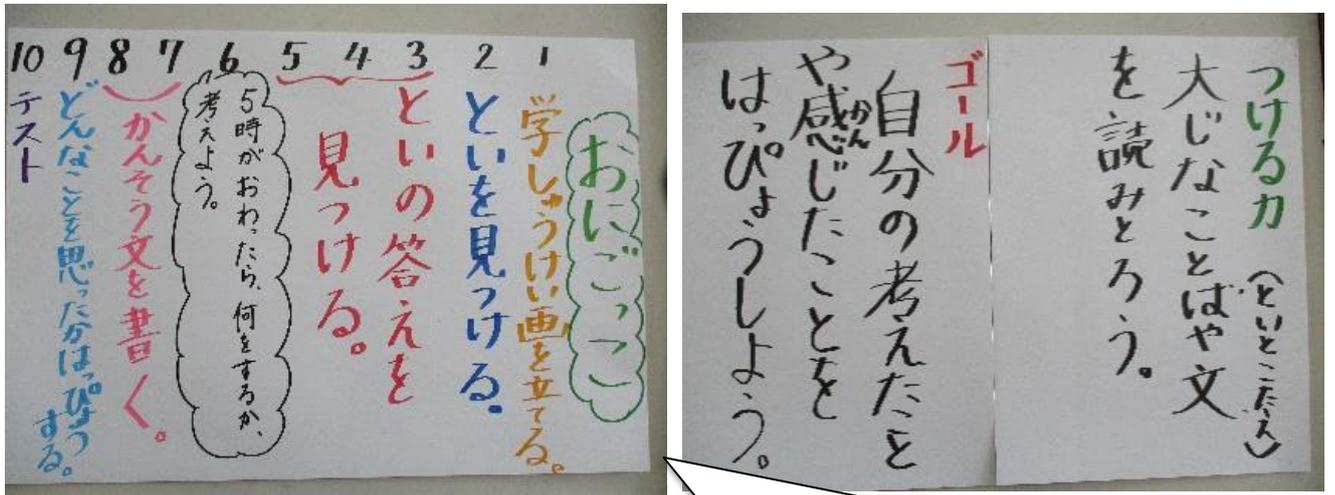
(2) 学習の展開 (4/10時)

学習活動	○指導上の留意点 ◆「努力を要する」状況と判断した 児童への指導の手立て	評価規準 評価方法	
1 前時の学習を振り返る。 2 学習課題を確認する。	○前時に問い1「どんな遊び方があるか。」を見つけたことを確認し、問い2「なぜそのような遊び方をするのか。」の答えを見付ける必要があることに気付くようにする。		
めあて なぜ、②③だんらくのようなあそび方をするのだろう。			
3 ②③段落を音読する。 4 ②③の遊び方の「きめる」(同じところ)とは、それぞれ何をめているのか、文章から見付ける。 ②段落「にげてはいけないところ」 ③段落「つかまらないところ」 5 問い2の「なぜ、そのような遊び方をするのか。」の答えが説明されている部分を見付ける。 ・②③段落のどちらかを選び、選んだ方の答えを見付ける。 ・早く終わった児童はもう一方の段落について考える。 (自力→ペア→全体)	◆音読に課題がある児童の近くで、指で読むところをなぞらせながら読むように声をかける。 ◆問いの答えを見付けることが難しい児童には、挿絵と文章をつなげることで遊び方を思い浮かべながら読むように声かけをする。 ○児童に挿絵を使いながら遊び方を説明するように促すことで、説明されている内容を正しく理解しているか、自分で確認できるようにする。 ○「おにごっこ」は、「おに」と「逃げる人」がいれば成立するのに、なぜ②③段落のような遊び方をするのかを問いかけ、理由を見付けようとする意欲につなげる。 ◆文章の意味理解が難しい児童は、教師が横について線を引かせたり指し示したりしながら見付けさせる。 ◆友達が見つけた問いに対する答えが教材文のどこに該当するのかを探して線を引き、ワークシートに書きこむように声をかける。 ○全体交流の際に児童の理解が不十分だと判断した場合は、なぜ、おにや逃げる人が有利になるような遊び方をするのかを問う。その時に走るのが苦手な子供と得意な子供のイラストを用意し、②③段落の遊び方をすると、みんなが楽しめることに気付くようにする。	文章の中の重要な文を考えて選び出している。 [思考・判断・表現] (ワークシート)	
6 本時の学習を振り返る。	○本時の学習と今までの経験と比べて、思ったことを書く。 ◆一人では書けない児童には、本時の授業の中で印象に残ったことや思ったことを聞き、児童の考えが膨らむようにする。		

(3) 板書計画



9 手立ての具体

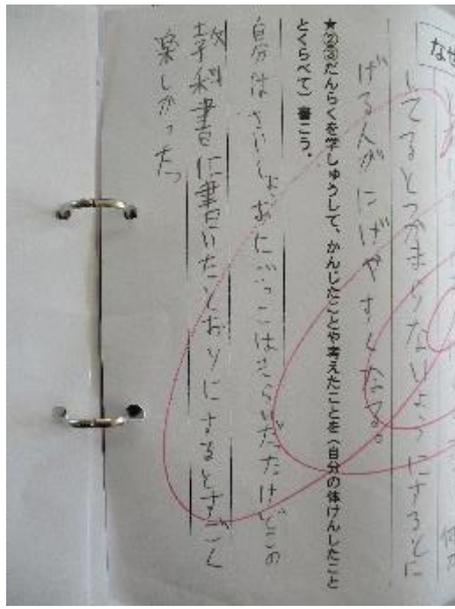
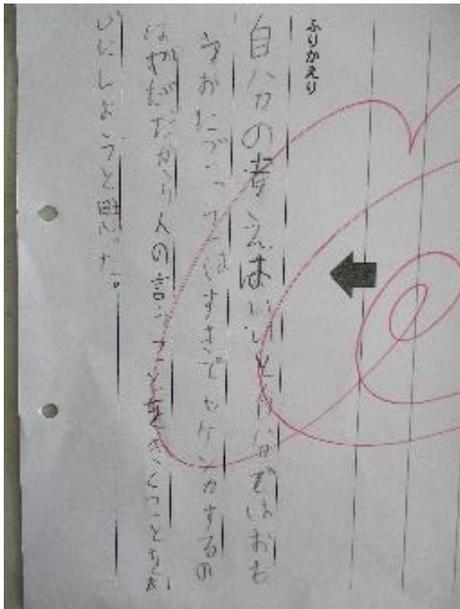


学習計画を児童と立て、見通しがもてるようにする。

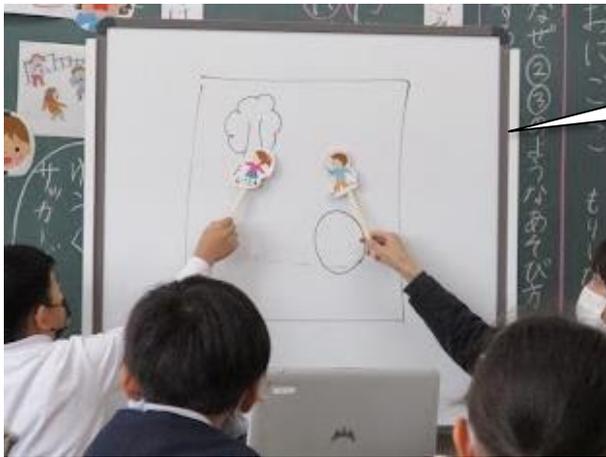


たけのこ読み、一文読み、追い読みなど、様々な方法で音読を行い、集中して音読ができるようにする。

たけのこ読みを行っている様子



毎時間、学習をして考えたことや分かったことなどについて自分の言葉でまとめさせる。



図を示したり、文章の内容に合わせてペープサートを動かしたりする支援をし、文章の内容がイメージできるようにする。



友達同士で自分の考えを伝え合う機会を意図的に多く仕組み、言葉で表現できるようにする。



児童の感想文	その理由(体験) これから	筆者の考えに 対して思ったこと	教材文を読んで わかったこと
<p>いす。 てならにおごっこを楽しした</p>	<p>は、みんなで話し合っくくうし これからおごっこをするとき ました。</p>	<p>おごっこは、おになった人も にげる人もくふうすること、み んなが楽しめるあそびだと思いま す。</p>	<p>わたしは、「おごっこ」のせつ 明文を読んで、おごっこは、にげ てはいけないところをきめたら、 にげる人がすぐにつかまって、お ごっこがすぐにおわってしまう けど、バリアがあったらすぐにお ごっこがおわらないことがわか りました。</p>

※児童のワークシートを授業者が打ち直しています。

評価規準（「おおむね満足できる」状況（B））

教材文に書かれている内容を既にもっている知識や実際の経験と結び付けて、解釈し、思いをもっている。

判断の視点

(1) 文章の内容と自分の体験とを結びつける

- ・「自分自身が走るのが苦手」という体験と「3段落と4段落の逃げる人のためのよさ」を繋げて考えている。

(2) 文章の内容を解釈する

- ・「逃げる人だけが入れるところを作ったりつかまらない場合を決めたりする。」という教材文の内容を自分の体験とを結び付けて読み、説明されている内容を自分の言葉に置き換えて書き表している。

(3) 自分の思いをもつ

- ・これからどのようににおごっこ遊びをしたいかについて、思いを書いている。

学級全体の評価（「おおむね満足できる」状況（B）以上と評価した児童）の割合は、以下のとおりである。

文章の中の重要な語や文を考えて選び出すことができる。	93%
文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつことができる。	93%

11 成果と課題

〈成果〉

学習の見通しや課題意識

- ・学習計画を児童と一緒に立て、教室に常掲することで、「今日は、問い2の答えを見つけよう。」
「今日は、感想文を書くためにメモを作った方がいい。」など、児童が見通しや課題意識をもって、学習に取り組むことができた。

重要な語や文に着目する

- ・「どんな遊び方があるのか。」「なぜ、そのような遊び方をするのか。」の問いに対して、答えの語や文に線を引いたり書き出したりすることができた。

自分の体験と結びつけて考える

- ・「遊び方」「その理由」を読み取る中で、「私もきまりをつけたら楽しくなったことがある。」
「ルールを守ってくれなかったら楽しくなかった。」など、体験と結び付けて読むことができた。

筆者の考えについて考える

- ・おにごっこには、様々な遊び方があり、それぞれの遊び方の理由を読み取る中で、どの遊び方も「みんなが楽しめるための工夫であること。」と結び付けて読むことができた。

〈課題〉

重要な語や文に着目する

- ・条件ありのおにごっこの理由（メリット）を読み取る時に、条件なしのおにごっこのデメリットを読み取るなど、不必要な語や文まで読み取っている児童が多く見られたので、どの言葉や文が一番大切か（問いに沿うのか）に着目させる。

条件に合った答え方

- ・「なぜですか。」「どんなところですか。」と聞かれていることに対して、「です。」「ます。」などの答え方になっていたので、「～だからです。」「～ところ（こと）です。」という文末表現をさせる。

自らの考えの表現

- ・自分の体験と結び付けたことについて文章にまとめることができたが、「私も逃げてはいけないところを決めることで、逃げる人をつかまえやすくなり楽しくなりました。」など、教材文の書かれている言葉や文だけを使って文章を書いていた。「私も逃げてはいけないところを決めることで、足が速い友達もタッチすることができたことがあります、うれしかったことがあります。」
「だからおにごっこはみんなが大好きな遊びなんだとあらためて気付きました。」など、具体的な場面や気持ちなどを結び付けて文章の内容の解釈をさせるようにする。こうした解釈をすることで、文章の一部や全体に対する思いをもつ力を身に付けることを目指す。